

伊勢半本店 紅ミュージアム 企画展

華^か雅^がやきの赤絵細描

— 九谷赤絵の妙技 —



赤絵彩色金彩許由耳洗図紅鉢・石川県九谷焼美術館蔵



赤絵龍鳳凰文茶・個人蔵



三番叟文菓子鉢



赤絵細描文イヤ紋香炉



赤絵古唐文叟作菓子鉢・個人蔵

10年 10月16日「土」— 12月12日「日」

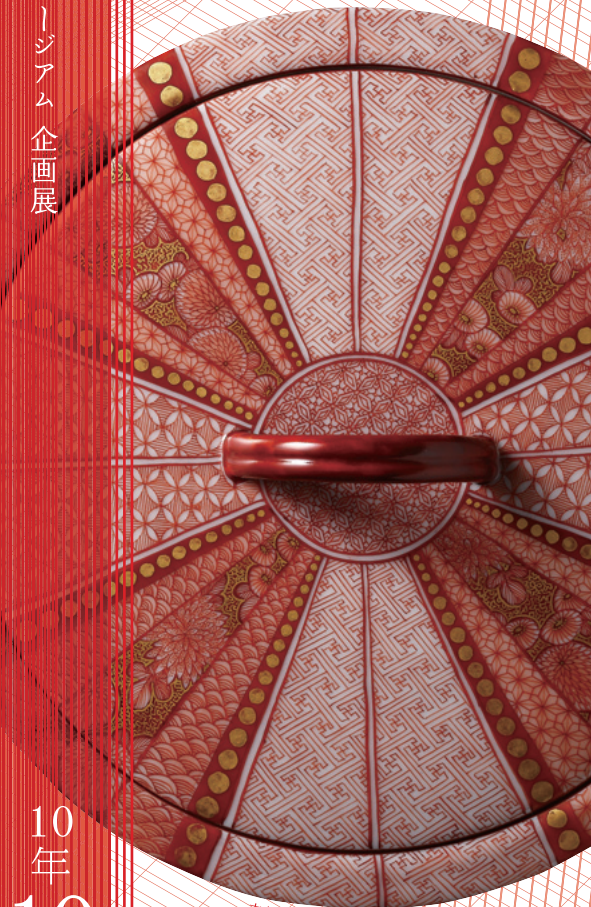
開館時間：午前11時～午後7時（最終日は午後5時まで）※いずれも入館は閉館30分前まで
休館日：毎週月曜日（ただし、月曜日が祝日または振替休日の場合は翌日休館）／企画展観覧料：300円

主催：伊勢半本店 紅ミュージアム

東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル1F

TEL:03-5467-3330 <http://www.isehan.co.jp>

協力：石川県九谷焼美術館・金沢卯辰山工芸工房
九谷焼窯跡展示館・能美市九谷焼資料館・福島武山（九谷焼 伝統工芸士）ほか



赤絵山水文水指



赤絵龍鳳凰文鉢・個人蔵



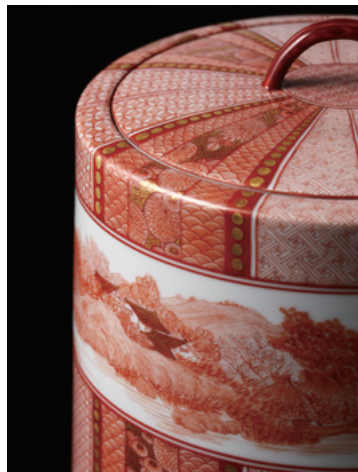
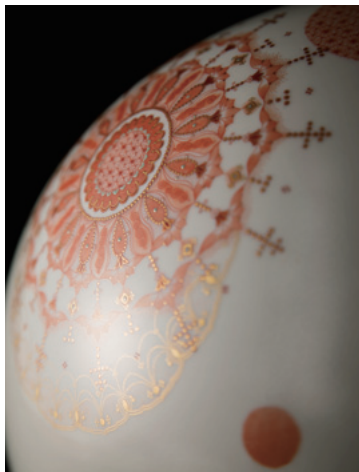
華^か雅^がやまきの赤絵細描

— 九谷赤絵の妙技 —

赤一色、白磁に映える千変万化の文様世界

江戸時代前期は明暦の頃（1655-1657）、日本を代表するやきもののひとつ「九谷焼」が、加賀藩江沼郡九谷村で誕生します。誰もが一度は目に、耳にしたであろうこの陶磁器は、その長い歴史の中、様々な画風が生まれ、今日に受け継がれてきました。古九谷以来の代表的な様式である青手・五彩手、そして再興九谷以降の木米風・吉田屋風・飯田屋風（八郎手）・永楽風・庄三風など、九谷焼の画風は他のやきものに類を見ないほど豊かです。多様多様な画風こそが、九谷焼の最大の魅力と言えるでしょう。

本展では、これらバラエティに富んだ九谷焼の中から、八郎手、すなわち赤絵細描様式に焦点を当てます。赤絵細描は、白磁胎の上に極細の筆で、髪の毛ほどの細い赤い線を描き詰め、文様意匠を作り上げていく上絵付技法を指します。赤一色、あるいはそこに金彩を加えて描き出される文様世界は、まさに千変万化。緻密精巧にして美麗、超絶技巧と呼ぶに相応しい九谷赤絵の世界を、江戸時代後期から現代に至るまでの優品とともに紹介します。この機会に是非、赤絵細描の魅力を堪能ください。



〈図版：左上より順に〉赤絵細書竜徳利（能美市有形文化財）・斉田道開・能美市九谷焼資料館蔵／赤絵獅子文鳳形大徳利・民山窯・金沢卯辰山山工芸工房蔵／赤絵金彩四君子文水差・浅井一毫・九谷焼窯跡展示館蔵／赤絵細描花文花器・織田恵美／赤絵山水文水指・福島武山／赤絵細描香合 白鳥の湖・見附正康

企画展観覧料：300円

※小学生以下と障害者手帳提示者ならびに同伴者1名は無料

企画展協力：石川県九谷焼美術館・金沢卯辰山山工芸工房・九谷焼窯跡展示館・能美市九谷焼資料館／個人所蔵家／

現代作家（福島武山・北出裕美・堀川十喜・織田恵美・見附正康・架谷庸子・林美佳里）※敬称略

< 企画展併催事業 >

① 講演会「九谷焼 赤絵細描」 11月13日（土）14:00～15:30
講師：福島武山（九谷焼 伝統工芸士）／定員：15名／聴講料：無料

② 体験講座「赤絵細描 絵付講座」 11月14日（日）13:00～16:00
講師：福島武山（九谷焼 伝統工芸士）／定員：8名／参加料：5,000円

企画展限定オリジナルグッズ 赤絵細描紅器



現代の赤絵細描絵付師らによるオリジナル紅器を、期間限定で販売します。

〈中心価格帯〉30,000～50,000円

【交通機関】

●地下鉄

東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線
「表参道」駅下車 B1出口より徒歩12分

●バス

- ① 渋谷駅東口バスターミナル51番乗り場
都01系統 新橋駅前行き「南青山七丁目」下車 徒歩1分
都01系統 六本木ヒルズ折返し「南青山七丁目」下車 徒歩1分
都01系統 東京ミッドタウン前（循環）「南青山七丁目」下車 徒歩1分
- ② 渋谷駅東口バスターミナル59番乗り場
渋88系統 新橋駅前行き「南青山七丁目」下車 徒歩30分

伊勢半本店 紅ミュージアム

東京都港区南青山6-6-20K's南青山ビル1F

TEL. 03-5467-3735 <http://www.isehan.co.jp>

